# Part 1 基本情報

## 1. ドミニカプロフィール

| | | |
|---|---|---|
| ⑴ | 正式名称 | (和文) ドミニカ国<br>(英文) Commonwealth of Dominica |
| ⑵ | 政体 | 共和制 |
| ⑶ | 首都 | ロゾー |
| ⑷ | 面積 | 790平方km |
| ⑸ | 人口 | 6万9278人 (2004年) |
| ⑹ | 民族 | アフリカ系89%、混血、カリブ族、その他ヨーロッパ系、中東系 |
| ⑺ | 言語 | 公用語:英語。公用語以外にクレオール語、パトワ語 |
| ⑻ | 宗教 | カトリック、英国国教会、メソジスト |
| ⑼ | 略史 | 1493年にコロンブスが到着。フランス、イギリスの植民地を繰り返した後、1805年イギリス植民地となる。1958年イギリス領西インド連邦に加盟。1967年外交と防衛の一部を除いた内政自治権を獲得。1978年イギリスの承認を得て独立。 |
| ⑽ | 在留日本人 | 15人 (2010年7月) |
| ⑾ | 気候 | 熱帯性気候に属す。雨期 (6～11月) と乾期 (12～5月) に分かれ、雨期にはハリケーンの影響を受ける。気温は土地の高低によって差が大きく、高地では終日涼しく、乾期であっても毎日のように雨が降っているが、海岸域は大変に暑い。 |

## 2. 業務のための基礎データ

⑴ JICA事務所の概要

名称 :JICA/JOCV Dominica Office

住所 : The Globe, 106 Independence Street, Roseau, Commonwealth of Dominica W.I.

郵便宛先:P.O.Box. 163 Roseau, Commonwealth of Dominica W.I.

連絡先 :国番号 :1-767

市外局番 :なし

電話 :1-767-440-3183 440-3184

FAX :1-767-440-3185

URL :なし

E-mail :dm_oso_rep@jica.go.jp

執務時間 : 8:30～16:30 (昼休み 12:00～13:30)

休日 : 下記祝日と土曜日、日曜日

1月1日 元旦

2月15日 カーニバル



All Rights Reserved, Copyright(c) 2010 Japan International Cooperation Agency

2月16日 カーニバル
4月2日 グッドフライディ
4月5日 イースターマンディ
5月3日 レイバーディ
5月4日 みどりの日
5月24日 ウィットマンディ
7月19日 海の日
8月2日 オーガストマンディ
9月20日 敬老の日
10月11日 体育の日
11月1日 クレオールフェスティバル
11月2日 クレオールフェスティバル
11月3日 独立記念日
11月4日 コミュニティサービスディ
12月30日 年末休暇
12月31日 年末休暇
(2010年)

事務所までの交通 :

【空港から】

空港からの移動は、レンタカーまたは借り上げタクシーを除いてはワンボックス型ミニバスしかないため、乗り合いのそのミニバスを使用するか、タクシーを借上げる。 タクシーはフロントガラスに「Dominica Development Corporation」のシールが貼ってあるものを選ぶ。片道約 US$70 (車を1台借上げた場合)。

【空港以外から】

Roseau 市内であれば、徒歩でどこからでも事務所まで歩いて来る事ができる。

空港以外の地方都市から事務所に移動するには、空港からと同様 Roseau 市行きのワンボックス型のミニバスタクシーを使用する。

(2) JICA事務所周辺地図 該当情報なし

(3) 日本との時差、 日本との時差 :13時間
サマータイム サマータイム : なし

(4) 祝日

1月1日 元旦
2月15日 カーニバル


All Rights Reserved, Copyright(c) 2010 Japan International Cooperation Agency

2月16日 カーニバル
4月2日 グッドフライディ
4月5日 イースターマンディ
5月3日 レイバーディ
5月24日 ウィットマンディ
8月2日 オーガストマンディ
11月1日 クレオールフェスティバル
11月2日 クレオールフェスティバル
11月3日 独立記念日
11月4日 コミュニティサービスディ
(2010 年)
官公庁の休日 ：上記祝日と土曜日、日曜日

(5) ビジネスアワー 官庁 8：00～16：00 (月曜日のみ17：00終業)
銀行 8：00～14：00 (金曜日のみ16：00終業)
商店 9：00～17：00 (土曜日は13：00終業が一般的、日曜日はほとんど休業)

(6) 言語 業務 ：英語
ホテル、買い物、食事 ： 英語

(7) 通貨 現地通貨単位 ：東カリブドル

(8) 通貨レート 1米ドル＝2.6882東カリブドル (TTB)
対米ドルは固定性であるので変動はしない

(9) 関係機関 【在外日本関係機関】
なし

(10) 有用サイト http://www.dominica.dm


All Rights Reserved, Copyright(c) 2010 Japan International Cooperation Agency

# Part2 生活情報

※「生活情報」は特に記載のない限りJICA事務所周辺の情報を中心に掲載しています。

## 1．ホテル、住宅

### 1-1 ホテル

大きなホテルは首都ロゾーに3軒ある以外はなく、その他宿泊できる施設のほとんどはゲストハウスのような収容人数が 10 人程度の小型施設である。首都ロゾーのホテルにおいても、3軒とも 50 室程度と規模はそれほど大きくない。島全体が火山島であり、海岸は石ばかりで砂浜が少ないうえ色も黒い。海岸線はほとんどが岩場ということもあってか、カリブ海の国ということで想像されるような大型高級ホテル、リゾートホテルはない。

首都の3軒のホテルを除いて、ゲストハウスではシャワーのみでバスタブのないところがほとんどである。温水シャワーがないところも多い。

ホテルの料金は部屋単位で、料金に 20%の税金がかせられる。首都のホテルはシーズンオフの安い時期で1泊約 90US$から 260US$と比較的高い。ゲストハウスは、トイレ、バスが共用のものからキッチン付きのものまで、料金は約 60US$から 90US$程度である。チップの習慣は特にない。

＜Roseau 市＞

Fort Young Hotel

Garraway Hotel

Sutton Place Hotel

Mr. Clean Bed & Breakfast

Narakiel’s Inn

### 1-2 住宅事情

元々国全体に平地が少なく、首都ロゾーにおいては平地のほとんどが町の中心街となっており、住宅は山の傾斜面にゲタ履き式の高床構造によって建っているか、もしくは斜面に沿って2階建てになっているものが多い。ほとんどの建物が平屋か2階建で、首都の中心街にあっても3階建以上の建物は少ない。当国で一番高い建物は7階建ての政府合同庁舎である。

首都ロゾーの住宅は古く、建築年数が経っているものが多いが、ロゾー市内が手狭になってきたことから、近年ロゾー市郊外へ住宅が広がっている。

町が狭く物件が限られている所に多くの人が住んでおり、住宅を探すのは容易ではない。特に防犯がしっかりとしており、車が敷地内に駐車できるような貸家は大変に少ない。

家は 1 軒家のフラットや 1 階と 2 階を別貸しとする物がほとんどで、家具付きや家具なしは交渉による。ロゾー近郊にはアパート形式の住居も増えてきたが、駐車場が確保できるか等の問題がある。地方で一軒家の貸家を探すのは至難



All Rights Reserved, Copyright(c) 2010 Japan International Cooperation Agency

の技である。

首都圏の貸家では、電気と上水道・水洗トイレ・プロパンガスなどが整備されているが、風呂はバスタブがなくシャワーのみであることが多い。

家賃は一般の物価に比較すると高く、地方から上京して来た現地の人は、一軒の家を数人でシェアして住んでいることも珍しくない。

関係者が居住できるような家は、ロゾー市内の比較的安全な住宅街で、家具付き2寝室の間取りのアパートで 1500～2000 東カリブドル、駐車場・家具付きの2～3寝室の一軒家で 3000～4500 東カリブドル、市街の 3～4 寝室の駐車場・家具付きの一軒家で 4000～5500 東カリブドル、郊外の2寝室のアパートで 3000～4000 東カリブドル程度である。入居時に家賃 1～3 カ月分の保証金を要求される。

### 1-3 住宅の探し方

関係者が住めるような物件は大変に少ない。新聞広告を参考にする他は、配属先の知合いなど様々な関係者の口コミに頼るか、もしくは徒歩で自ら空き家を探すしか物件を探す手段はない。不動産業者は土地の売買等が主でほとんど賃貸物件を斡旋していない。加えて、物件そのものが少ないため、複数の不動産屋に照会していても、紹介される物件は同じということが大変に多い。良い住宅の確保はたまたま住んでいた人物が他へ移る時といった、タイミングと運に左右されることが多い。

### 1-4 住宅選定上の留意点

特に注意すべき点は次のとおり。

鍵が一つのドアに2個以上ついているか。

家の敷地内に車を駐車できるところがあるか。

バーグラーバーが設置されているか、もしくは設置できるか。

水が問題なく供給されているか。

### 1-5 住宅の契約

契約期間は交渉により１年でも２年でも可能である。しかし、入居日や退去日に合わせて日払いをする習慣はなく、当該月も1か月分支払う必要がある。支払い方法は毎月支払っていくのが一般的。新規契約の場合1～3か月分の保証金を請求される。入居にあたっては、水道、電気料金がしっかりと精算されているか確認し、台所がガスの場合はガスボンベが設置されているのか確認する。家具付、家具無はその住居によって異なるため、入居前に大家と交渉することが必要。



All Rights Reserved, Copyright(c) 2010 Japan International Cooperation Agency

## 1-6 ガス、水道などの手続きと管理

電気料金、水道料金は、毎月の検針の結果、月単位で請求される。料金は検針による基本料金のほかに石油価格の変動を加味して計算される。電気は2カ月間滞納すると配電中止となる。水道の計量メーターのない古い家屋の場合は、月 1 戸当たり 42 東カリブドルの定額で請求されるが、関係者が入居するような住居には計量メーターが付いている。

ガスはボンベを使用する。大きなボンベの場合は業者が充填に来てくれるが、普通のボンベの場合は、空になったボンベを市内の業者に持参し、ガス代を支払って満タンのボンベと交換する。取り付け口の形状によってボンベは2タイプあり、取り扱い業者も違う。新しくボンベを購入することは可能である。ガスは輸入に頼っており、船が入るまでに町中からガスがなくなることも頻発している。なるべくボンベを2個用意して、常に片方は満タンな状態にしておいた方がよい。

ゴミはゴミ回収車が来て自宅前にゴミを出しておくと回収してくれる。地域によって回収車が来る曜日が決まっている。例えば Goodwill 地区の場合、月、水の週2回。

住宅街の住居の場合は、トイレはほぼ水洗で特にメンテナンスが必要になることはない。

## 1-7 家電

⑴ 電圧

電圧は 220/240V、周波数は 50Hz である。

家庭の壁にあるコンセントの電圧が 220 ボルトでかつ、イギリス式のコンセント形状であるものの、電化製品はアメリカから輸入されるものも多く、110 ボルトでアメリカ式コンセント形状のものが多くある。使用にあたっては、変圧器、プラグ変換アダプタが必要になることが多い。変圧器、プラグ変換アダプタは当国で購入できる。

⑵ コンセントの形状

住宅の壁に設置されているコンセントの形状は、3本角型のイギリス式が主となっている。電化製品はアメリカからの輸入が多いが、アメリカ製品や日本製品はコンセントの形状が違うため、プラグ変換アダプタを使用する必要がある。プラグ変換アダプタは、質は悪いが当国でも購入できる。

モジュラージャックの形状は日本と同じである。

⑶ 家電製品

①現地調達可能なもの

テレビ、冷蔵庫、洗濯機、アイロン等ほぼ全ての家庭電化製品は調達可能であるが、選択の幅が少なくデザインや機能は選択できない。電化製品は一部日本製もあるが、ほぼ中国、メキシコ、アメリカ、ヨーロッパ製である。炊飯器は保温機能が付いていないものであれば購入できる。


All Rights Reserved, Copyright(c) 2010 Japan International Cooperation Agency

ラジカセ、CD プレーヤー、DVD プレーヤーも購入可能であるが、同じくデザインや機能は選択できない。特に DVD プレーヤーはリージョンコードが付いているものがほとんどなので、当地で購入したプレーヤーだと日本の DVD を見ることはできない。

②日本から持参した方がよいもの

炊飯器に保温機能やタイマー等が必要な場合は 220V 対応のものを日本から持参した方がよい。日本の DVD を再生したい場合はプレーヤーも持参した方がよい。また、パソコンに関しては、当地では日本語の OS が入手できないこと、当地で販売されている製品には不法コピーのものもあることなどから、必要な場合は日本から持参した方がよい。

### 1-8 家具保険

保険会社は多数ある。火災保険等の加入は可能

### 1-9 その他

電気は停電がたまにあるが安定している。メーターによって使用分の請求が来たものを支払う方法と、プリペイドカードを買い、購入分料金をチャージして使用する「Pay-As-U-Go」という方法がある。賃貸を目的として建てられる住宅では「Pay-As-U-Go」が増えている。

## 2. 衣料、理容

### 2-1 衣料全般

⑴ 一般事情

一般的なズボン、シャツといった衣類は当地でも購入可能であるが、値段が高いわりには質が悪く、そのほとんどが化学繊維製品であり、綿製品などの購入は難しい。特に下着類は持参することを勧める。また、靴もサイズの選択が難しい上好みの物を見つけるのは難しいため、日本から持参した方がよい。T シャツ類はお土産屋などでドミニカ風の T シャツを購入できる。

当地は年中温暖であり、ほぼ一年を通して半そでシャツにズボンやスカートで過ごすことができる。仕事では男性は襟付きのシャツとスラックス、革靴が必要であり、状況によってネクタイや上着を着用する。女性も日本で仕事する時と同様のスタイルが一般的である。普段着は T シャツ短パン、スニーカーかサンダルで過ごせる。ただ、1～2月の冬には、朝晩冷え込む時もあり長袖が欲しくなることもあるため、長袖も準備しておいた方がよい。

国全体がほぼ山であり、山は一年を通して雨が降っているため、ハイキング等に行くことを計画しているのであれば、長袖及びウィンドブレーカーやカッパなどを持参した方がよい。


All Rights Reserved, Copyright(c) 2010 Japan International Cooperation Agency

⑵ 日本から持参したほうがよい衣料

自分のサイズにあった品質の良い製品を見つけることは大変に難しいため、上着、下着、履物はできれば日本から持参した方がよい。紳士では特に下着、スーツ、革靴、ワイシャツ、スニーカー、靴下等。婦人では下着、スーツ、ワンピース、靴下、ストッキング、パンプス、スニーカー等。子供では下着、靴下、靴等は日本から持参することを勧める。

⑶ 現地で調達したほうがよい衣料

特になし。Tシャツ等は当地で購入可能。

⑷ その他の留意点

衣料品専門店というのは当国にはない。

当国では、民族服としてマドラスチェック柄の生地を身に付けるのが伝統である。マドラスチェック柄の生地は沢山売っており、それを測り買いして縫ってもらうのが一般的である。女性は白いブラウスとフリルの付いた白いスカートにマドラスチェックのスカーフ、もしくはマドラスチェックのスカート。男性は白いシャツに黒いズボン、赤のサーシをウエストに巻き、マドラスチェックのネクタイを付けるといった格好がトラディショナルであり、独立記念日等の行事の際に着用する。

## 2-2 礼装

⑴ パーティー

公式な会食ではスーツとネクタイを着用する。一般的な会食では襟付きのシャツとスラックスでネクタイは特に着用しない。女性の服装は、公式な会食ではスーツかワンピースに上着。一般的な会食ではワンピースもしくは、ブラウスにスカートといった姿が多い。

⑵ 式典

独立記念日の式典等公式行事に呼ばれた場合は、黒めのスーツにネクタイ着用である。

独立記念日の前2週間程はクレオールウイークと呼ばれ行事が多い。トラディショナルのマドラスチェックの衣装を身に着ける人が多い。

配属先機関の行事などでは、半そでシャツにネクタイ、スラックスという格好が一般的。

⑶ 冠婚葬祭

教会での結婚式では男性はスーツにネクタイと黒い革靴、女性はワンピース･ドレスにパンプスといった格好が一般的、柄は特に問われない。葬式には白と黒の服装。一般的に日本の結婚式や葬式と同様と考えてよい。

日曜日の礼拝には、派手目なドレスで皆着飾って参加する。

⑷ その他の留意点

男性は明るめのスーツとダーク系のスーツが一着ずつ、黒い革靴があれば対



All Rights Reserved, Copyright(c) 2010 Japan International Cooperation Agency

応できる。

女性はパーティーに出席できるようなドレス、スーツ各一着、黒及び明るい色のパンプス各一足あれば対応できる。

### 2-3 洗濯、仕立て、修繕、保管

⑴ 洗濯

クリーニング店は首都に何か所かある。ドライクリーニングも可能。アイロン、洗濯機は機能さえこだわらなければ当地で購入できる。

⑵ 仕立て、修繕

仕立屋は数多くあるが、仕立てはあまりうまくない。修繕は期待できない。

⑶ 保管

防虫剤、除湿剤等は当地では手に入り難いため、日本から必要に応じて持参した方がよい。

### 2-4 美容院、理髪店

特に女性はおしゃれである。ロゾー市の中心街には数多くの美容院がある。しかしこれらの店は、巻き毛を束ねて編み込んだり、伸ばしてストレートにしたりする所がほとんどである。中には、ストレートの髪をカットしてくれるところもあるが技術は期待できない。理髪店はそのほとんどが散髪台一つバリカン一つで、ただ刈り上げる店である。

シャンプーやローションといった物は手に入るが、メーカー等を選ぶことはできない。特に愛用品がある場合は日本から持参した方がよい。家族で散髪することを考えている場合は、バリカン以外理髪道具は入手できないので持参した方がよい。

## 3. チップ

### 3-1 チップ事情

⑴ 習慣の有無

特にチップの習慣はない。

⑵ 各種サービスに対するチップ

荷物などを運んでもらったり、簡単な作業を手伝ってもらったりした時には5～10東カリブドル程度をお礼に渡すのが一般的。

## 4. 食生活

### 4-1 外食

⑴ 一般事情

1日の食事は、朝(6～8時)、昼(13～14時)、夕(19時～22時)頃の3回が一般的であるが、朝10時頃に軽食をとり遅めの昼食を多く食べ、夕食を軽くす



All Rights Reserved, Copyright(c) 2010 Japan International Cooperation Agency

る習慣も一般家庭にはまだ残っている。

昼にレストランで軽食を食べることはあっても、夜外食をする習慣がないことから、夜にオープンするレストランは大変に少ない。昼食はどこでもほとんど同じクレオール料理であるが、店によって味に特徴があり飽きない。日曜日や休日はレストランも休業するため、ホテル以外での外食はほとんどできない。食事代は、平日の昼食で8～40東カリブドル、夕食で40～70EC東カリブドルと日本と比べても高い。

⑵ 飲食店

ドミニカでは首都ロゾーにおいても、日本で想像するような外国料理を出すレストランはない。レストランのほとんどは地元のクレオール料理である。大概は、一皿に、鶏肉、豚肉、牛肉、魚、七面鳥の一品をメインとして、ご飯、イモ、野菜、食用バナナ、煮込んだ豆、スパゲッティなどが盛り付けられて出てくる。味付けは濃い目で美味しく違和感はない。好みに合わせてチリソース等で味を調整する。地元の人は、家庭での食事が主体で外食は一般的ではない。しかし、金曜日の夕刻などには道端に炭焼きチキンを売るバーベキューがあちこちに出る。

＜Roseau 市内＞

[クレオール料理]

The Chef Cafe

La Robe Creole Ltd

Cartwheel Cafe

Cocorico Café

[西洋料理]

La Maison

[中華料理]

Dynasty (中華閣) Restaurant & Bar

Chinatown Restaurant

## 4-2 食料

⑴ 一般事情

主食は米、パン、イモ類、食用バナナを主食として、鶏や魚、肉を煮込んだり揚げたりしたものにソースをかけたものと、付け合せとして、煮た豆、茹でた野菜、スパゲティ等を食べるのが一般的である。パンは街中で売っている店が多く、容易に手に入る。米は長粒米であればスーパーマーケットで手に入れることができる。

食料は冷凍品が多く、野菜も含めて、そのほとんどを輸入に頼っている。

現地で採れるものとしては、キャッサバ、ヤム、ダシーン、タニヤ、サツマイモ、ニンジン、ショウガなどの根菜類があるが、これらは豊富で安い。料理用バナナ、ブレッドフルーツ、ナス、キュウリ、カブ、オクラ、カボチャなどの果菜類、あまり



All Rights Reserved, Copyright(c) 2010 Japan International Cooperation Agency

品質は良くないが、キャベツ、レタス、ネギ、クレソンなども手に入る。ジャガイモやタマネギ、ニンジン、ニンニクなどは輸入品であるが手に入る。

蛋白源としては、鶏、魚、山羊、牛、豚、七面鳥、鶏卵などがある。鶏、牛、豚、七面鳥はその大半が輸入品である。魚は、エビ類、貝類、干し魚や缶詰類は全て輸入であるが、キハダマグロ、シーラ、トビウオ、カツオ、タイ類、ハタ類等は水産市場で手に入る。

果物は、バナナ、グレープフルーツ、オレンジ、ライム、マンダリン、グアバ、アボガド、パパイヤ、マンゴー、ヤシ、パッションフルーツ、トマト、スイカなどが国産で手に入る。現地の人は果物として食べる他、生ジュースにして飲むのが好きである。リンゴやブドウ、イチゴ、洋ナシなども手に入るがほとんどが隣のフランス領マルティニークやグアダルーペからの輸入品である。

主食の芋類をはじめ、野菜や果物は豊富ではあるが、時期によって店頭からなくなったりする。地方では、市場や小売店もなく、購入できる食材が限定され、非常に少ない。

⑵ 主な食品の出回り状況

＜野菜＞

野菜はスーパーマーケットより、土曜日早朝にオープンする青空マーケットの朝市の方が、種類が豊富である。スーパーマーケットの取扱品は概して単価が高く鮮度が悪い。これに対し、市場のものは新鮮ではあるが、不良部分はそのままで洗ってないものも多く、ポンド単位の目方売りとなる。

＜魚介類＞

魚は、首都ロゾーにおいては水産市場で週末に手に入るが、鮮魚よりも冷凍品が多い。マリゴットやフォンコレのような漁船の水揚げ基地で、漁船の帰着に出合えば刺身でも食せるような新鮮な魚が手に入る。全てポンドでの計り売りで、大きなマグロなどは必要なポンドを伝えると輪切りにしてくれる。また、町の中では魚の行商も行われている。ほら貝の音が行商人の合図であり、漁師が水揚げしたものをそのまま売り歩いていることが多い。

＜果物＞

果物はスーパーマーケットで売られているものは鮮度が悪く、新鮮な果物を購入するには、野菜同様、土曜日早朝の朝市で購入する方がよい。季節によって果物の種類が異なり、マンゴー、パイナップル、タンジェリン、パパイヤ、アセロラ、オレンジ、グレープフルーツ、スイカ、ライム等が並ぶ。バナナは輸出検査に落ちた次級品が売られることが多く、品質にばらつきがある。

＜米＞

長粒米はスパー等で手に入る。たまにタイ米も店頭に並ぶ時がある。日本米のような短粒米は手に入らない。

日本米を入手するには、日本から託送を受けるか、もしくは、セント・マーチン、マイアミ、トリニダード・トバゴ、セントルシアに行ってアメリカ産の日本米を購入



All Rights Reserved, Copyright(c) 2010 Japan International Cooperation Agency

するしかない。

＜飲料水＞

急峻な山が多く雨が多いため清流や川も多い。全国に 365 の河川があるといわれており水は豊富である。ドミニカの上水はそうした川の水を使用している。多量の雨が降った時などは水道水がにごるが、普段は蛇口からの水をそのまま飲むことができると言われている。但し、水をためておくと藻がわくことからわかるように、有機物が多く、本当に自然のままであるため、飲料するにあたっては煮沸するか、海外へも輸出しているミネラルウオーターを使用することを勧める。

上水道は、ドミニカ水道公社（DOWASCO）により全国の家庭や集落に供給されている。都市部では各戸に上水が供水され、地方にあっても村落の中心部には用水栓が広く設置されている。全国の家庭の 55～60%が直接給水を受け、また、村落で集団給水を受ける家庭を含めると約 90%が水道水を供給されているという。

都市部、地方にかかわらず、川では洗濯や沐浴をする人をよく見かける。人々は豊富な水を有効に使って生活している。

雨期に雨が大量に降ったり、ハリケーンの影響を受けたりすると浄化装置の機能が働かなくなり断水する。断水は続くことがあるので、2、3日分の水は溜めておいた方がよい。

＜その他＞

肉類は輸入品が多いが、生肉類は部位を選ばず、衛生状態を気にしなければ、週末の朝市で入手可能である。輸入品は可食部分のみを部位毎にパックされてスーパーマーケットで売られている。

⑶ 食料の入手

食料品は、食材を選ばなければ輸入の冷凍品や缶詰、瓶詰などで間に合わせられる。最近、スーパーマーケットで取扱い食料品の品数が増えてきており、アメリカ産のキッコーマン醤油やインスタントラーメンの他、真空パックの豆腐やごま油等が、ときどき棚に並ぶようになってきた。

スーパーマーケットは首都ロゾーにおいても三軒程度しかない。しかも、どの店でも品揃えは一緒であり、一軒の店から在庫が切れると他の店からもなくなり、品薄状態は1か月から半年ほど続く。よって、ある時に買いだめしておいた方がよい。日本食品はキッコーマンの醤油以外ほとんど手に入らない。

## 4-3 食器、調理器具

⑴ 食器、調理器具などの入手

西洋料理に使う一般的な食器類、ナイフ、鍋等は入手できる。文化包丁、中華鍋、茶碗、箸といった日本で一般的に使用する食器類は入手できないので、必要であれば日本から持参する必要がある。



All Rights Reserved, Copyright(c) 2010 Japan International Cooperation Agency

⑵ 日本から持参したほうがよい食器、調理器具

日本の食器類は全く手に入らないので、必要であれば全て持参した方がよい。特に文化包丁、出刃包丁はあると料理に便利である。茶碗は小さなボールで代用でき、急須も紅茶ポットで代用できるが、必要であれば持参すること。箸は手に入らないので持参するしかない。

調理器具は機能を選ばなければ、中国製、アメリカ製、メキシコ製の鍋や電子レンジ、ミキサー等が現地で手に入る。

## 5. 生活用品の購入

### 5-1 家電製品

①現地調達可能なもの

テレビ、冷蔵庫、洗濯機、アイロン等ほぼ全ての家庭電化製品は、機能やデザインにこだわらなければ調達可能である。電化製品はほぼ中国、メキシコ、アメリカ、ヨーロッパ製である。炊飯器は炊飯機能のみのものであれば購入できる。

ラジカセ、CD プレーヤー、DVD プレーヤーも購入可能であるが、デザインや機能は選択できない。特に DVD プレーヤーはリージョンコードが付いているものがほとんどなので、当地で購入したプレーヤーだと日本の DVD を見ることはできない。

家電製品については、ロゾー市内に大きな電気店が一軒ある以外は雑貨屋のような店でしか取り扱っていないので、入手にあたっては、まず大きな電気店をチェックし、そこで見けられない場合は、家電製品を置いてありそうな雑貨屋をこまめにチェックしながら品物を見つけることになる。最近では中国商店が増えてきたことから、中国製の家電製品が出回ってきている。日本製は大型のテレビくらいしか手に入らない。

②日本から持参した方がよいもの

炊飯器に保温機能やタイマー等が必要な場合は 220V 対応のものを日本から持参した方がよい。日本の DVD を再生したい場合はプレーヤーも持参した方がよい。また、パソコンに関しては、当地では日本語の OS が入手できないこと、当地で販売されている製品には不法コピーのものもあることなどから、必要な場合は日本から持参した方がよい。

### 5-2 家具

ロゾー市に大きな家具屋が一軒、大型スーパーマーケットで家具を売っているところが一軒ある以外は、町の小さな家具取扱店で購入する。デザインや機能を選ぶことはできない。また、店頭にある物を購入しないと、売れてしまうと同じものが再度入荷するとは限らない。



All Rights Reserved, Copyright(c) 2010 Japan International Cooperation Agency

### 5-3 日用品、雑貨

日用品は大型のスーパーマーケット等で手に入るが、メーカーや品物を選ぶことはできない。トイレットペーパー、ティッシュペーパー、生理用品、オシメ等は全て輸入で、日本と比べて大変に高価である。日用雑貨、掃除道具やバスルーム小物等に気の利いた製品を見つけることはできない。ある物であきらめるか、代用するしかない。

文房具は基本的なペンやホチキスといった物は購入できるが、中国製が多く大変に使い勝手が悪い。使用に際してイライラすることを避けたい人は、日本から使い勝手のよい物を持参した方がよい。

コンピュータプリンタのインクは品揃えが少なく購入できる物は限られている。現地でプリンターを購入する分においては、購入後もインクの入手は可能な場合が多いが、小型のプリンターを日本から持参して使用するなどの予定がある場合は、それに使用できるインクも持参した方がよい。

本屋は本専門の店はなく、文房具店等で売られている。日本の書籍は購入できない。また、英語のパーパーバックも新しいものはほとんど購入できない。

### 5-4 工具、素材

工具はハードウエアショップで入手可能である。スパナやレンチのセット、大工道具等、家庭で使用すると思われる大抵の物は手に入る。木材等も入手可能である。しかし、小さな釘、細い針金等は手に入らない。

## 6．金融機関

### 6-1 金融機関

⑴ 銀行

ドミニカでは外国資本の銀行も多く、ATM も 24 時間活用できるなど整備もある程度整っている。マネーロンダリングのチェックが厳しく、たとえ自己の生活資金といっても、多額の資金を当地の自己口座に送金する際には大変な手間がかかる場合もある。

米ドルと現地通貨である東カリブドルは固定レートとなっており、為替の変動はない（英国ポンドとは変動為替）。また、特に米ドルが銀行で不足するといった状況も今のところない。関係者は Nova Scotia (Scotiabank) 銀行を使用しているが、同銀行に口座を開設し、そこに日本の銀行等から送金を受ける。銀行の開設にあたっては、面接があり、複数の推薦者からの手紙や ID を準備する必要がある。

⑵ 口座の開設と閉鎖

銀行口座を開設するためには手続きが必要である。開設手続きは次の通り。

1．銀行のマーケット部門の営業担当にアポを取る。

2．推薦の手紙を二通用意する。



All Rights Reserved, Copyright(c) 2010 Japan International Cooperation Agency

3．公的な身分証明書を二通以上提示する。（パスポートと当国外務省発行のID、および Work Permit）
4．担当の面接を受けつつその場で必要書類を作成する。
5．全ての手続きが終了すると、その場で口座が開設され、キャッシュカードと通帳を受け取る。

銀行口座を解約するためには、残金を引き出す際に窓口で解約する旨を伝え、その場で手続きをして解約できる。個人口座の場合は日本に帰国するなど解約理由を伝えれば特に難しいことはない。

⑶ 小切手

国内の銀行小切手は現金同様に流通している。個人の普通口座を開設するにあたっては、キャッシュカード及び通帳を使用する普通口座か、小切手口座を選ぶことができる。

東京三菱 UFJ ニューヨーク信託銀行等、海外銀行の小切手を使用するにあたっては、確認をするのに時間がかかり、現金化までに大変に時間がかかるため現実的ではない。

⑷ 換金方法

日本円の売買はできないが、米英仏の通貨は銀行で自由に交換できる。現地通貨の東カリブドル（ECドル）は米ドルと固定し、約2.7ECドル=1米ドルであるが、英国ポンド等とは為替の変動によってレートが変更する。東カリブドルは東カリブ諸国連合の国であれば、どこでも通貨として流通している。

トラベラーズチェックは銀行で交換できるが、銀行によって扱っているトラベラーズチェックの会社が違う。また、現金よりレートが悪い。スーパーマーケット等においては、トラベラーズチェックは使用できない。

### 6-2 クレジットカード

ホテルでは Visa や MasterCard、American Express のクレジットカードが使用できる。また、Visa、MasterCard は、大きな店舗であればだいたいどこでも使用できる。

## 7. 交通事情

### 7-1 交通手段

⑴ 一般事情

日本と同じく左側通行である。

国全体がほとんど山となっているため、どの道も道幅が狭く、片道一車線の道路である。山道が多く、急な上り下りや先が見えないカーブ等も多い。その上道路には穴が開いている。


All Rights Reserved, Copyright(c) 2010 Japan International Cooperation Agency

ロゾー市内、また、地方都市においては歩道があるところもあるが、多くの道は、道から直ぐに民家が建ち並び、狭い道を車、自転車、単車、人、動物が行き来している。

バスは日本で想像するような大型のバスはない。公共の交通機関、鉄道もない。営業しているのは、ロゾー市内路線バス、市外を結ぶ長距離バスにかかわらず、ワンボックスカーを利用した個人経営のバス（タクシー）のみである。バスはナンバープレートが「H」から始まっている。行き先はフロントガラスに表示されている。ロゾー市においては、行き先によって発着場所が違うため、目的方向に行く発着場に停車しているバスにたずねて確認する。途中乗車は、バスが来たら手を上げてバスを止めて乗車する。満員でない限り、バス停でなくともだいたい止まってくれる。料金は決まっており、どのバスに乗車しても乗車区域が同じであれば同一料金である。借上げる場合を除き料金を交渉する必要はない。乗車に際しては、誰と言わず、既に乗っているお客さんや運転手へ「Good day」というように挨拶をするのがマナーである。

当国には、日本のようなタクシー、ハイヤーは存在しない。バスを借り上げる時は運転手と交渉の上特別料金を支払って貸し切る。

ロゾー市内は徒歩で歩いて周れるほど小さく、市内の道路も幹線道路といっても狭い。対面通行ができる道路は、ベイフロントを走る Dame Eugenia Charles Blvd. くらいであり、ほぼ全ての道路は道幅一車線の一方通行となっている。日中は道に車があふれ、通行人と車が渾然一体となって混んでいる。一方通行の標識は無いところが多いので、右折、左折にあたっては進入できるか十分に注意する必要がある。

駐車場というものが一部の建物を除いてない当国においては、車は路上に駐車され、縦列駐車が続き、狭い道幅がより狭くなっている。駐車している車は歩道に乗り上げていることも多く通行の障害となっている。また、市内の道路には側溝があり生活排水が流れているが、ほとんどの部分はカバーしていないため、道端は穴があいた状態になっている。狭い道を車に注意しながら歩行する必要があるが、足元にも十分に注意していないとドブに足をとられることになる。

国内において信号機というものはまったく存在しないため、交差点に進入する際には注意が必要である。ロゾー市内においては優先道路が暗黙のうちに決まっているので、それを知ることが重要となってくる。市内、横断道路がある所では、ほぼ車は歩行者のために止まってくれるが、それ以外の場所では車優先となっているため、道路を横切るには注意が必要である。

### (2) 自家用車を利用する場合

国中道路が大変に狭く、また、ロゾー市内においては路上駐車が多いため、運転には注意が必要である。市内は一方通行に気をつける必要もある。山間部は道路が狭い上見通しの悪いカーブが続き、急なのぼり坂やくだり坂が多い上に


All Rights Reserved, Copyright(c) 2010 Japan International Cooperation Agency

道路に穴が開いている。また、崖側にはガードレールがない。対向車や人や動物の飛び出しに細心の注意が必要である。また、海岸線は一車線道路にもかかわらず車のスピードが速い。無理な追い越し等もあるため、前後の車に十分な注意を払う必要がある。

⑶ レンタカーなどを利用する場合

レンタカーを運転するにあたっては、当国の運転免許がない場合は、空港のレンタカー会社でテンポラリーの運転免許を発行してもらう必要がある。免許は英語の記載のある有効期限内の運転免許があれば直ぐに発行してくれる。当国では日本の国際免許は免許として通用しないが、日本の国際免許でこのテンポラリーの運転免許を作成することは可能である。

レンタカーは古いものが多いので、運転にあたっては車の状況を良く見て借りることが必要。また、故障や事故の際の補償や連絡先をしっかりと確認しておくことが必要。

⑷ 地図

地図は簡易な旅行者用であれば、空港、旅行案内所等において無料で手に入る。縮尺のしっかりとした地図は本屋で購入することができる。バス路線図は存在しない。

## 7-2 交通事故、盗難

⑴ 対処方法

事故現場をそのままにして直ちに警察に連絡する。けが人がいる場合は救急病院等に搬送する手続きを取る。

救急車：999

警察：999

⑵ 救急病院

緊急対応できる病院は当国で唯一の公立総合病院であるプリンセスマーガレット病院のみである。当国は一番遠くの町でも約1時間半で移動できるため、酸素吸入等を必要としない場合であれば、まずは車で首都まで搬送する。救急車が必要な場合は、近くのヘルスセンターから連絡を入れてもらうか、または携帯電話等で救急車を呼ぶ。しかし、救急車は首都から出向くことになるので、地方において急な対応が必要な場合は、地方の警察等の力をかりて車で移動した方がよい。

プリンセスマーガレット病院には救急外来や集中治療室等があるが、専門医が常駐していることはなく、あまり緊急対応や高度な治療は受けられない。手術をする必要がある時には、マルティニークやグアダルーペに搬送されることが多い。

⑶ 車両の盗難、車上荒らし

車両盗難はあまり発生していないが車上荒らしは多い。人気の無い場所に



All Rights Reserved, Copyright(c) 2010 Japan International Cooperation Agency

夜間車を駐車する等を避けることで予防するしかない。

## 7-3 交通違反

⑴ 交通法規

当国は日本と同様左側通行である。

飲酒運転は基本的には禁止であるが、人々は特に気にせずビール瓶片手に運転している。特に夜間はバス運転手でも飲酒していることが多い。制限速度は特に定められていない。

ロゾー市内はほぼ全ての道路が一方通行であるが、表示されているところは少ないため、覚えることが必要である。交通法規は一般的に日本のものと同様である。

⑵ 罰金、罰則

車検のステッカーが有効期限を過ぎていたり、駐車禁止の場所に止めたりした場合は罰金が科せられる。反則切符をきられたら速やかに裁判所へ行き、罰金を支払わなくてはならない。

## 7-4 車の修理

⑴ 部品

日産、スズキについては、公認の現地ディーラーがいるため、取り扱い車両であれば純正パーツの入手は可能である。その他については、町のパーツ屋を巡り、雑貨店のようなパーツ屋の棚に目当ての部品があるかどうか探すしかない。当地のバス運転手等はセントルシアの業者等からパーツを個人的に輸入している。

スズキエスクード（現地名ビターラ）、ジムニーは大変にポピュラーなので、純正、新品とは限らないが、部品の取り扱いも他車種よりは多いと思われる。また、比較的 10 年落ち程度のトヨタ車（ラブ 4、カローラ等）も見かけるため、そうした車であれば部品が手に入るかもしれない。

ホンダ、三菱といった車を日本から持参する場合は、スペアパーツも持参した方がよい。

⑵ 修理工場

修理工場は個人経営のものが多くある。オンザジョブトレーニングで学んだ者が多い。あまりコンピューター制御等されていない車であれば何とか動くように修理してくれる。日産の代理店では訓練を受けた修理工も多く、修理するのであれば、日産の代理店に頼むのが一番信用できる。



All Rights Reserved, Copyright(c) 2010 Japan International Cooperation Agency

# 8. 通信

## 8-1 電話

### ⑴ 一般事情

電話は、携帯電話が普及しており、山間部の深い森の中を除き、国内はほぼどこからでも利用できる。固定電話も国内ほぼどこでも利用ができる。また、ロゾー市など都市には公衆電話がありコインもしくは専用のプリペイドカードで利用できる。しかし、地方の路上などにあっては、電話を見つけることはできない。

固定電話器は、申込後、数日で取付け可能である。電話器は自分で購入する必要があるが、機能を望まなければ町の雑貨屋で中国製を安価で購入することができる。

### ⑵ 国内電話

電話会社に ID と申込書を持参し申込金を支払うことで加入できる。Cable & Wireless 社の固定電話の場合、市内 EC$0.15/分、市外 EC$0.76/分。1 カ月の通話基本料金が、住居用 20EC ドル、事業用 55EC ドルである。

公衆電話の通話料は1分間単位で、コイン式が 25 セント、カード式が 27 セントで、テレフォンカードは同社が通信網を整備している OECS（東カリブ諸州機構）各国に共通して使用できる。

### ⑶ 国際電話

料金は通話先、時間帯等によって異なるが、日中日本までの場合は東カリブドル 2.20/分程度である。夜間や休日には割引料金が適用される。特に問題なく国際通話は即時ダイヤルで可能である。コレクトコールもかけられるようであるが、実際に実施したことがないため不明。国際電話は当国から外国へ発信する際は「011+国番号＋ゼロを取った市外局番+番号」でダイヤルすると直接かかる。カリコム諸国及びアメリカにおいては「1+国番号+ゼロを取った市外局番+番号」をダイヤルする。

### ⑷ 携帯電話

携帯電話は大変に普及しており、山間部の深い森の中を除き、国内はほぼどこからでも利用できる。携帯電話は、SIM カードを利用した GSM 方式であり、プリペイドカードによる料金支払い方式が一般的である。ポストペイド方式もあるが、業務用等に限られ購入には手続きが必要である。プリペイドカード方式であれば申込みと同時に使用できる。店頭に電話を持ち込むか、店頭で電話を購入し、ID カードを提示して接続料金を支払えば直ぐに使用できるようになる。モデルを選択することはあまりできないが、携帯電話機も購入できる。

現在大きな携帯電話会社が3社あり、電話会社において携帯電話の販売も行っているが、そうした携帯電話はその会社の SIM カードでしか使用できない場合が多いので注意が必要である。

日本から携帯電話を持ち込んでも GSM 方式でなければ使用できない。



All Rights Reserved, Copyright(c) 2010 Japan International Cooperation Agency

## 8-2 電信

⑴ ファクシミリ

回線状況はあまり良いとは言えない。枚数が多いと送受信ができない時もある。ホテルのビジネスセンター等で有料のファックス送信ができる。

⑵ テレックス

存在しない

⑶ 電報

存在しない

⑷ インターネット

インターネットのプロバイダーは主に 2 社ある。電話会社の Cable & Wireless 社が料金体系等豊富で一番のシェアをほこっている。Marpin Telecom 社はケーブルテレビ会社であるが、インターネットプロバイダーサービスも実施している。インターネットのサービスは、ID のコピーを添えて申込書を提出し料金を支払うと、1週間程度で使用できるようになる。通常はほとんど問題なくアクセスできるが、トラブルが生じた際の回復には時間がかかる。

ダイヤルアップ、イーサーネットを通じた ADSL 共に可能。ADSL は通信速度や通信時間の制限によって基本料金が異なる。ADSL のモデムは買い取りである。

## 8-3 郵便

⑴ 一般事情

郵便は、土曜日と日曜日、祝日を除き、郵便受付は 8〜15 時（月曜日は 16 時）、小包は 8〜15 時（13 時から 14 時までは昼休み）まで郵便局で受付ける。ロゾー市内および主要地域では郵便物の戸別配達もしているが、紛失、遅配等があるため、ロゾー郵便局にある私書箱での受取りのほうが便利である。小型の私書箱は、年間使用料が 70 東カリブドルで、空いていれば、申込日に入手可能である。

国内郵便は、葉書 EC$0.5、所要日数は 2、3 日、国際航空郵便は、日本までは がき、封筒とも EC$1.20 である。日本までの所要日数は 2 週間から 1 カ月程度必要である。

郵便局と政府合同庁舎に郵便投函ポストがあるが、集配を考えると郵便局の窓口で手渡す方が確実である。

⑵ 課税

基本的に送付された物品は課税の対象となる。小包を受け取る際に開封し、税関の職員が品物を検査、品物によって課税し、料金を支払って受け取る。電化製品等は課税率が高いが、日本食や雑誌等の場合はせいぜい東カリブドル 1〜5 程度である。



All Rights Reserved, Copyright(c) 2010 Japan International Cooperation Agency

⑶ 国際宅配サービス

国際宅急便は数社が営業している。日本へは、DHL便では、実働日4日程度で届く。料金は配送先、重さによって異なるが大変に高い。日本への場合、1kgまでEC$203.53、それ以降は重量を計量の上積算される。

国際宅配サービスはDHLの他、FedEx、UPSがある。国際EMSの取り扱いはない。

## 9. コンピューター

### 9-1 ハード、ソフト

⑴ 調達の方法

英語のコンピューターは現地で購入可能であるが、ウインドーズはXPの場合メディアエディションといったバージョンも多い。オフィスは入っていないことが多く、違法コピーと思われるものをインストールしている場合もある。最近ではビスタがインストールされているものが多くなってきている。当地でウインドーズ、OFFICEといったソフトを単体で購入することは大変に難しい。単体で購入するにあたっては、店頭で扱っていないため特別に輸入してもらう必要がある。もしくはインターネットを使って自分で購入した方がよい。プリンターはヒューレットパッカード社等のバブルジェットが購入できるが、製品を選ぶことはできない。品物が常時あるとは言えないため購入する際に店頭に並んでいるものから選ぶしかない。ケーブル類、外付けハードディスク、USBメモリ等の周辺機器は購入可能であるものの、ZIP、MO等は購入できない。

⑵ 使用の際の注意

電圧は安定しており特に日常においては問題ないが、突然停電等が起こることがあるため、ディスクトップ型のコンピューターにおいては、蓄電器、スタビライザーを設置した方がよい。

ソフトは当地ではほとんど購入できない。コンピューターへインストールしてくれるものは違法コピーが多い。ウイルス対策も必要である。

⑶ 修理

コンピューター、周辺機器の修理はほとんど不可能である。プリンター程度であれば、購入先で修理してくれる時もある。

## 10. 職場環境、勤務条件

### 10-1 職場環境、勤務条件

⑴ 就業時間

一般的な官庁の就業時間は、月曜日が8時から5時、火～金曜日は8時から4時である。昼休みは1時から2時の1時間である。残業の習慣はないが、残業した場合は残業手当が支給される。



All Rights Reserved, Copyright(c) 2010 Japan International Cooperation Agency

⑵ 有給休暇

有給休暇は、雇用年数によって雇用年数5年未満は1年に2週間、5年以上で1年に3週間となっている。

⑶ 執務室

配属先、職種によって異なる。一般職は大部屋で、役職が付くと個室が与えられるというパターンが一般的である。どの事務所にもパソコンはあるが、自分専用に使用するためには、自分用のパソコンを設置する必要がある。

⑷ 通勤事情

バスは多く走っているので、バスによる通勤は問題ない。但し、時間にかならず捕まえられるはいえないため、自家用車を持っている場合は、自家用車での通勤が多い。自家用車で通勤した場合、ロゾー市内は駐車場が少ないため、駐車場所を見つけるのに苦労することもある。

## 11. 出入国手続き

### 11-1 入国

⑴ 空港施設概要

国際空港は、メルビルホール空港のみである。メルビルホール空港は平屋の建物で小さな空港であり、到着、出国、待ち合わせで迷うことはない。飛行機を降りたら徒歩で建物に入り、入国審査、荷物検査を受けた後、一つしかないドアが出口である。

ロゾー市の郊外にあるケーンフィールド空港は小さく、現在は DHL 等貨物運搬用の飛行機しか発着していない。

⑵ 入国手続き書類

入国にあたっては、1か月～3か月の滞在ビザを空港で入手できる。それ以上滞在する場合はビザが有効な間に延長の申請を行う。

片道航空券で入国する場合、途中アメリカの航空会社でビザの有無をチェックされることがある。その際には受入確認を提示し、公務による長期滞在を説明する必要がある。

⑶ 入国審査

所定の申告用紙に記入し、訪問目的、滞在期間を口頭で係官に伝える。特に問題となることはない。

入国用紙の切れ端は出国時に必要になるため保管しておく。

⑷ 税関検査

当国は食品等生活基本資機材を除く品物の輸入を課税対象としている。持参した荷物にあっても同様である。空港で大きな荷物を持っていると開けるように言われることがある。指示があった場合は開け、全て自分の、旅行用品、生活用品である旨を伝える。特にダンボールで私物を持参した場合は必ず開封を要求される。荷物はバックに入れて持ってくる方がよい。



All Rights Reserved, Copyright(c) 2010 Japan International Cooperation Agency

別送品に関しても、引き取りの際に開封を要求され、物品には課税される。

規制品としては、麻薬、ポルノ、銃器、動植物等がある。

麻薬、ポルノ、銃器は基本的に持ち込み禁止であり、所持が見つかると逮捕される。動植物は輸入する物によって取り扱いが違うが、基本的にドミニカ政府発行の輸入許可証が必要である。

＜免税品＞

メルビルホール飛行場や船着場に免税品店はない。ロゾー市内には免税品店があり、飛行機や船の出国チケット及び ID を提示することで免税品を購入できるところもある。

＜検疫＞

入国に際し、黄熱病感染地域通過者は注射証明書が必要であるが、他は特に不要である。動植物の他、生物や生肉の搬入に関しては、事前に輸入許可を得るなどの手続きを必要とする。加工生肉類でも、品目や製造場所によっては輸入禁止のものもあるので、そうしたものを輸入する際には事前にチェックしておく必要がある。

ペットを含む動物の輸出入に関しては、植物園にある農業省管轄の獣医による証明を事前に取得する必要がある。

⑸ 空港内での留意点

空港には特に警察の詰め所、医務室等はない。

⑹ 出迎え

当国の空港には出迎える場所というものがない。入国審査を受け、税関でのチェック後、出口は一つしかなく、その出口を出たところが出迎え場所となる。

⑺ 空港からの主な交通手段

空港からの移動は、レンタカーを除いてはワンボックス型のミニバスしかないため、乗り合いのミニバスを使用するか、タクシーを借上げるしかない。タクシーはフロントガラスに「Dominica Development Corporation」のシールが貼ってあるものを選ぶ。タクシーを借り上げた場合、空港からロゾー市内まで片道約 70US$。

⑻ その他の留意点

空港内には両替をする場所がない。東カリブドルを持ち合わせていない場合は、タクシーは米ドルで支払い、ロゾー市内の銀行で両替を行う。

## 11-2 出国

⑴ 出国時の概要

航空会社（アメリカンイーグル、もしくは、リアット）の出国カウンターにて航空券、パスポート、出国カード（入国用紙の切れ端）を提示し、出国税 55 東カリブドルを支払って、ボーディングパスを受け取る。リアットの場合はボーディングパスが無い場合もある。チェックイン時には荷物検査を受けることもあるが、大抵



All Rights Reserved, Copyright(c) 2010 Japan International Cooperation Agency

の場合は中を見られるようなことはない。特に重量が規程をオーバーしている時はその場で超過分を取り除くことを要求される。荷物は重量制限があり、アメリカンイーグル航空、リアット航空共に、1個 23 キロ以内、合計2個まで 35 キロ以内しか預けることができない。総重量を超えた場合は飛行機に載せてもらえない。

また、アメリカンイーグルは満員に近い状態の場合は、体重制限等もあるため、なるべく早く、少なくとも 3 時間前に手続きを開始した方が確実である。

⑵ リコンファーム

基本的にはアメリカンイーグル、リアットともにリコンファームの必要はない。但し、長期滞在する場合はオーバーブッキングを回避するためにも、念のため、事前にリコンファームを実施した方が確実である。リアットはロゾー市にあるリアットの事務所で実施できる。アメリカンイーグルは当国に事務所がないので、メルビルホール空港のアメリカンイーグルのカウンターで確認するか、もしくは、アメリカ本土の事務所に直接電話し確認する。市内旅行代理店においてもやってくれるが、旅行代理店に出向き依頼する必要がある。

⑶ チェックイン

アメリカンイーグル、リアット共に、3 時間前までにチェックインした方が確実である。当国発着の飛行機は小さく、満席の状態の場合が多いため、早めのチェックインを実施し席を確実に確保する必要がある。リアットの場合は突然乗るはずの飛行機の飛行が中止され、勝手に違う便に変更されていたりするため、余裕を持ってチェックインする方がよい。

メルビルホール空港はロゾー市内から山を越えた反対側にあり、移動には峠越えが必要となる。車はスピードを出せないため移動には1時間半程度を見込んでおいた方がよい。

荷物は重量の制限があるので注意が必要（前項参照）。また、リアットはロストラゲージが大変に多いため、荷物が届かないことを覚悟しておく必要がある。

⑷ 空港利用税

出国時に空港利用税EC$55を支払う

⑸ その他の留意点

当国に再入国ビザというものはない。有効期限のある就労ビザ等があれば、問題なく再入国できる。なくても、目的がはっきりとしていれば、特に問題を生じるようなことはない。

当国の空港は有視界飛行であるため、大雨、大風、曇りの日は空港閉鎖になることが多い。また、夕刻日没以降の発着ができないため、飛行機の来るのが遅れるなどして当国発が日没に間に合わない時には、飛行機はキャンセルされる。


All Rights Reserved, Copyright(c) 2010 Japan International Cooperation Agency

### 11-3 帰国手続き

⑴ 帰国時に必要な事務手続き

該当情報なし。

⑵ 車の処分

免税処置をして輸入した車を、免税処置が可能な者に売る場合は、名義の変更のみで特に問題は生じないが、一般の人に売る場合は、車の使用年数によって税金を支払う必要がある。使用年数が多くなるにつれ税金も安くなる。買い手は知人の紹介、新聞広告を出す等で見つけるしかない。

⑶ 家財道具の処分

日本へ荷物を送付するためには、①郵便局から小包として出す、②DHL 等クーリエ便を使用する、③運送会社に依頼するという方法がある。郵便は航空便で日本まで 2 週間から1か月、船便で2か月から半年ほどかかる。DHL であれば、実働日 4 日で着くが値段は大変に高い。

任国で処分するためには、ガレージセールをして売るか、知人に売るかしかない。

⑷ 住宅の明け渡し

家主への通知は契約書に明記されている期間前に通知する。デポジットは最終家賃支払に充当し、余った分は家主が家をチェックして、修繕の必要等がなければ返金してくれる。

⑸ 外貨持ち出し規制

特に規制はないが、多額の米ドル送金等を実施する際には、移転にかかる個人資金の移動であることを説明する必要がある。

## 12. 治安、緊急時の心得

### 12-1 暴動、クーデターなど

⑴ 一般事情

治安は平穏である。かつて独立時に軍部によるクーデター騒ぎがあったが、その際に軍隊は解散し、現在にいたっても軍隊を持っていない。警察が常に町を巡回し、週末朝市のマーケット等においても巡回している。人々は皆顔見知りで温和であり、争いや喧嘩はあまり見かけない。政治的にも安定しているため、現在の状況においては、暴動やクーデターが発生するという心配は少ない。

⑵ 対処法

小さな島国であり空港は二か所しかない、かつ、首都から大きめの飛行機が発着できるメルビルホール空港までの道は一本しかない。島国のため、空港以外で国外に出る手段は船しかない。そのため、暴動、クーデターが起こった場合逃げ場はほとんどない。家から出ずに自宅に待機し沈静化するのを待つしかない。緊急時は駐在員からの指示を待って行動する。



All Rights Reserved, Copyright(c) 2010 Japan International Cooperation Agency

## 12-2 強盗、盗難

### ⑴ 一般的治安状況

当国はカリブ地域の中で比較的治安が良いと言われている。犯罪は怨恨や麻薬からみが多く、年に5件ほど発生する殺人事件も 100 パーセント犯人は検挙されている。普段の生活の中で凶悪な犯罪被害にあうことはあまりない。大きな家では犬を飼っているところも多いが、警備員等を雇う家はほとんどなく、バーグラーバーが設置されていない家もある。一般犯罪では侵入盗が多い。もしくは、窓から棒状のものを差し込み、近くにあるものを盗むフィッシングという手口の犯罪がよく発生している。目の細かいバーグラーバーの設置や、窓のそばに貴重品を置かないなど犯罪にあわないような心構えが必要であるが、日本と同様普通に注意し、施錠等をしっかりと実施する生活をしていれば、特に神経質になる必要はない。

日本人の被害としては、これまでに、合鍵を使用した住居侵入によるパソコン等の盗難（住居入居時の鍵の交換や増設が必要）。フィッシングの手口による盗難等がある（目の細かい網の設置や窓際に貴重品を置かない等の心がけが必要）。

### ⑵ 住宅の防犯対策

家に入居する際にドアに二つ以上鍵がついているかを確認し、できれば鍵を取り替えるか、内側から施錠できるような閂状の鍵を新たに設置する。窓には鉄格子が付いていない家も多いので、鉄格子を設置する。大きな家では犬を飼っているところは多いが、犯罪はコソドロが多いため、犬は防犯に効果がある。特に心配であれば犬を飼うと効果的である。

フィッシングや侵入盗の犯罪が多いため、窓には中がのぞかれないようにカーテンをかける。窓から手の届く範囲に貴重品を置かない。鍵をしっかりとかけるといった心構えが必要である。

### ⑶ 市中での防犯対策

ロゾー市内はほとんどが東京下町の路地裏のような狭い道であるが、日中であれば人通りも多く、普通に気をつけていれば特に心配することはない。暗くなってからは極端に人通りが少なくなるため、人気のない路地道や不良がたむろするところは避け、人が行き交う道を選ぶなどの心構えが必要である。

### ⑷ 注意すべき場所、危険地域

事務所裏の路地からスパニッシュバー近辺
ロゾー川沿いバス停付近で単車が集まっている近辺
バスエステートの奥地裏通りの人気のない暗がり
ロゾー郊外タリッシュビート

### ⑸ 被害時の心得

逆らわず抵抗せずに金品を渡す。直ぐに警察に連絡するとともに、駐在員に連絡する。


All Rights Reserved, Copyright(c) 2010 Japan International Cooperation Agency

## 12-3 火災、風水害、地震

### ⑴ 一般的災害発生状況

当国は毎年ハリケーンによる被害を受けることが多い。豪雨の後では、雨水が鉄砲水となって島の急斜面を流れ下る。

首都ロゾーは、1898、1930、1950、1979、1995、1999、2007 の各年にハリケーンによる大きな被害を受けている。1979 年にハリケーン･デービッドが来襲した際には、首都が破壊され約 75%の国民が住居を失い、農業生産が 60%減少し、輸出用生産基盤が壊滅したほか、交通通信網なども壊滅的な被害を受けた。この被害の復旧作業中の 1980 年にも、再度ハリケーンの被害を受けた。1989 年のユーゴ、1995 年のルイスやマリリンなど連続したハリケーンの際にも、農業生産は半減した。1999 年には、ハリケーンレニーの影響で、特に西岸の海岸線は大被害を受けた。日本からの無償資金協力による施設も 1995 年と 1999 年にハリケーンによる被害を受けている。2007 年のディーンでは、主要農産物であるバナナの約 80%に被害が生じた。

ドミニカは火山島である。ボイリングレイクはその名のとおり、沸騰している湖である。ユネスコの自然遺産に指定されているトロア･ピトンをはじめ、山の多くは火山である。1880 年に南部地域で、火山噴火による火砕流被害を受けて以降、1994 年に至るまで大きな火山噴火などによる被害は出ていない。

火山性地震は 1998 年から 1999 年にかけて半年ほどの間、島の南部域で継続発生した。最近では 2004 年に北東部で発生した地震でポーツマス町に大きな被害が生じた。2007 年にマルティニーク沖で地震が発生し、ロゾーでも強い揺れを感じた。

### ⑵ 防災対策

ハリケーンの被害に対する保険は保険会社で取り扱っている。住宅は大家の持ち物なので、大家と相談する必要があると思うが、お金さえ払えば保険は受けられる。過去に多くのハリケーンの被害を受けているものの、防災施設というものは整備されていない。

毎年、6 月 1 日から 11 月 30 日まではハリケーンシーズンとして、政府は新聞等を通じて国民にハリケーンに備えるよう呼びかけている。その際には準備すべき事項に加えて、罹災時の非難場所等も発表される。

食料はハリケーンのニュースが流れると、パンやミネラルウオーターが店頭から直ぐになくなるため、普段から水、缶詰類、スナック類等を準備しておく必要がある。

なお、ハリケーンでなくとも、一度に多くの雨が降ると上水道の浄化施設が土砂によって停止するため断水が生じる。普段から水を溜めておく等の準備をする必要がある。

### ⑶ 被災時の心得

当国は急峻な山から直ぐに海となっている地形であり、また島国であるため緊



All Rights Reserved, Copyright(c) 2010 Japan International Cooperation Agency

急に避難する手段はない。

### 12-4 緊急連絡先電話番号

警察：999

消防、救急車：999

（当国には日本大使館、総領事館等はない）

## 13．社交

### 13-1 風俗習慣

ドミニカ人は大変に明るく社交的な人柄である。街ですれ違う際、バスに乗る際など、見知らぬ人であろうと、かならず挨拶を交わす。挨拶をすることで潤滑な人間関係を形成している。東洋人はよく中国人と間違えられからかわれるが、その原因の一つは中国人がこの挨拶をあまりしないことにもあると思われる。英語やクレオール語で積極的に挨拶をすることが相互理解につながる。

人々の気性は島国の人々に共通するものがある。また、基本的に田舎であり、日本の田舎に残る文化と似ている部分がある。それは、本音と建前を使い分け、あまり新しいものを直ぐに受け入れようとせず、縁故関係が強く、コミュニティにおける相互扶助の関係が強いといったところに現れている。

人々は自分を主張する意識が強く、客観的に考えて理不尽と思われることでも、思いついたことは堂々と主張する。よって、自分の主張を伝えたい場合は強く自分の意見を言う必要がある。自分の意見に非があると判断すると、直ぐに自分の意見を訂正する素直さも持っており、議論することで相手を納得させる必要がある。こうした状況は日常においても多く発生する。

食料等が自然と手に入る環境にあるためか、将来を見越して対応するということがあまり得意ではない。常にその時その時に対応するため、災害に備える、断水に備えるといった将来への準備は不得意である。一方、一般的に人々は勤勉で、土日でも公共工事を実施したりしている。問題は将来を見通した計画がうまくできないことと、社会の仕組みに勤勉な人材を有効活用できるシステムがないことにあると言える。

田舎の相互扶助が強いためか、他人に依存することも多く見られる。隣の庭になっているマンゴーや花がほしければ、隣人が知人でなくとも「ください」と堂々と要求することは何も問題とはされない。そうした気風は社会全体に見て取れる。

日常生活において一番ストレスを感じる場面は、サービス業に何かを依頼する時であろう。スーパーマーケットにおける買い物から旅行代理店での航空券の手配まで、サービス業にサービスを期待することはできない。接客態度は悪く、担当範囲を少しでも超えると対応してもらえず、効率が大変に悪い。



All Rights Reserved, Copyright(c) 2010 Japan International Cooperation Agency

＜飲酒＞

飲酒はポピュラーであり、よくビールを片手に街を歩く人を見かける。朝から水がわりにビールを飲んでいるような人もいる。一般的に自国産のビールを好み、自国産ビールは値段が大変に安い。深夜まで食事をしながら飲み会を行うような習慣はないが、帰宅前に楽しくビールを飲みながらの一時を過ごすことや、週末に友人宅で飲むというような飲み方が好まれている。

＜喫煙＞

国産たばこの製造販売や、外国産たばこの輸入販売もしているが、現地の人はほとんど喫煙しない。ホテル以外で、事務所や民家、集会場に灰皿を用意しているところはない。

## 13-2 パーティーでの留意点

当地において特別なことはない。会話を楽しむ、食事のマナーを守る等は日本や西洋の社会で気をつけることと一緒である。家庭でのパーティー等もよくあるが、音楽をかけ、皆で飲食しながらダンスをするのが一般的である。

## 13-3 来客時の留意点

特に変わったことはない。ビールやラムパンチ等好みの飲み物をすすめる。料理は個人の皿に盛っても、大皿を皆で取り合っても問題ない。

## 13-4 訪問時の留意点

フォーマルなパーティー等では事前にアポイントを取ったり、出席を確認したりすることが多いので、その際はそれに従う。親しい友人の家に行くには、行く前に電話を一本かけるなど、日本と同様の常識を持っていれば問題ない。手みやげを持参する習慣はあまりないが、自作のケーキやアイスクリーム、果物等を持って行くと喜ばれる。

## 13-5 禁止されている言動（タブー）

酔っ払って泥酔することは問題である。政治の話は皆好きで話題にするが、支持する政党が違うと口論になることもあるので、一般的な範囲で話題にする程度に留めておく方がよい。

## 13-6 日本人会

当地に日本人会はない

## 13-7 JICA帰国研修員同窓会

JICA 帰国研修員同窓会は 2006 年に設立された。毎年魚食奨励のためのイベントや社会活動（ビーチでのごみ拾い等）を実施しており、隊員とも交流を深



All Rights Reserved, Copyright(c) 2010 Japan International Cooperation Agency

めている。

### 13-8 現地の人々との交流

現地の人々との交流の機会は多い。ドミニカ人は知らない外国人であっても直ぐに受け入れてくれるため、こちらから積極的に交流の機会を持つようにすれば友達も直ぐにできる。家に招かれたり、釣りやビーチに誘われたりする。また、広場でサッカーやクリケットをやっているが、特に知人がいなくとも、何も問題なく参加させてくれる。

## 14. 教育

### 14-1 教育事情

⑴ 一般事情

＜学校＞

15 才以上の国民の識字率は 94%といわれており、就学率も高い。現地語のクレオール語はフランス語に近く、英語のみならず、フランス語ができる人も多い。政府も家庭も、児童の教育に熱心である。

教育制度はイギリスの学校制度を東カリブ地域の旧英連邦諸国とともに準用している。5 歳から入学し、小学校 7 年間、中高等学校 5 年間の合計 12 年間が義務教育となっている。学期は 9〜7 月である。授業は 8 時から 13 時までが原則であるが、高学年では午後に補習授業もある。教室不足のため、学校によっては 2 部授業をするところもある。学校給食の制度は一部の学校では実施しているが基本的にはない。

学校は、Pre-school（3〜5 歳、就学全教育）から Primary School（5〜12 歳）、Secondary（High） School（13〜16 歳）、College（17〜18 歳）となっている。大学は、University of West Indies（UWI。西インド諸島大学）の分校とアメリカの医科大学 Ross Medical University、及びカナダの医科大学 All Saints University の分校があるが、大概の大学進学希望者は、アメリカ、カナダ、イギリスといった国外の大学に進学する。

小学校や中高等学校までは公立と私立があるが、外国人対象のインターナショナルスクールはない。外国人の子女は、公立･私立校とも容易に受入れてもらえる。関係者の子弟は公立の学校に通うか、私立の学校に高めの授業料を支払って入学する。

授業内容は大学に進学するためには合格しなくてはならない、CXC（Common Entrance Examination for Caribbean）やイギリスの大学へ進学するための GCE に沿ったカリキュラムが組まれている。カリキュラムの見直しも適時行われている。しかし、高校生になっても基本的な算数ができない生徒がいるなどの問題も指摘されている。

カレッジでは進学指導と職業訓練を行う。専門的知識を備えた教師と施設の



All Rights Reserved, Copyright(c) 2010 Japan International Cooperation Agency

不足から、理科の実験や音楽、絵画などの情操教育はほとんどなされない。

＜教師＞

教師養成カレッジの卒業生が小中学校の教師の資格を取得する。生徒数に対する教師数が不足しており、なかなか質の高い授業を実施することができない状況にある。地方においては、経験や資格がない教師が学校で指導していることもある。

＜言語＞

言語は、英語を公用語とする。教育を受けた親がいるような家庭では、ほぼ英語が家庭内言語となっている。一方、現地語としてクレオール語（French patois）というものが話されており、教育は英語で、家庭内はクレオール語でという家庭も少なくはない。クレオール語はフランス語に近く、この二つの言語の他にフランス語を話せる人も多い。

⑵ 日本人学校

当地に日本人学校はない。

⑶ 現地校、外国人学校

現地の公立、私立の学校に入学可能である。インターナショナルスクールといった外国人学校はない。

⑷ 幼稚園

当地の現地の幼稚園に入園可能である。幼稚園は託児所を兼ねているところが多い。ロゾー市内であればたくさんあるが、幼児教育の勉強をしてきた教員がいるところは少ない。

### 14-2 教育関係施設

⑴ 図書館など

首都に公立の図書館が一軒ある。登録手続きを行えば誰でも利用可能である。

## 15．家庭の使用人

### 15-1 一般事情

必要であれば、掃除婦やベビーシッター等を雇用することは可能であるが一般的ではない。最低賃金が決まっており、日払い、週払いなどを個人と契約して雇用する。人材派遣業者といったところはないため、個人的に知り合いのつて等で紹介してもらうか、新聞広告等で募集する。労働規約は当国の労働法に沿って実施する。

### 15-2 運転手

⑴ 雇用

当国で運転手を雇うという習慣はない。現職の大臣等も自分で車を運転して



All Rights Reserved, Copyright(c) 2010 Japan International Cooperation Agency

いる。必要であれば個人的に知り合いのつて等で紹介してもらうか、新聞広告等で募集し、日給等によって個人契約を行う。契約は当国の労働法に沿って実施する。

⑵ 運転管理

特になし。

⑶ 日常管理

特になし。

⑷ その他の留意点

特になし。

### 15-3 家政婦／夫

⑴ 仕事の種類と人数

特に一般家庭において家政婦を雇用するという習慣はあまりない。仕事内容は契約時に協議して同意を得れば特に制限はない。

⑵ 雇用

知人の紹介、もしくは新聞広告で募集する。

⑶ 日常管理

当国の労働法に沿った契約によって実施する。

### 15-4 庭師、ガードマン

庭師は日雇いで雇用することが可能である。草刈等を実施する個人商売も存在している。知人のつて等で個人を雇い、日給を合意の上、必要になった都度に雇用するのが一般的である。

ガードマンを雇っている家庭はほとんどない。必要な場合は、警備員派遣会社があるため、そうした会社と契約すれば派遣してくれる。料金は勤務時間等によって異なる。

## 16．メディア

### 16-1 新聞、雑誌

⑴ 現地発行の日刊紙

当地の新聞は全て週刊紙である。英文の民間週間紙3紙を、首都の書店や街頭で販売している。価格は 1 部 EC$1.5 である。 宅配は販売契約を結べば首都中心部であれば可能であるが、一般家庭で宅配を実施しているところはほとんどない。一般的には発行日に取扱店で購入する。

- 「The Chronicle」(毎週金曜日発行)
- 「The Sun」(毎週月曜日発行)
- 「The Time」(毎週水曜日発行)



All Rights Reserved, Copyright(c) 2010 Japan International Cooperation Agency

⑵ 日本の日刊紙

日本の新聞は当地で入手することはできない。入手にあたっては、新聞を定期配信してくれる会社と契約して個人で輸入する必要がある。

⑶ 欧米紙／誌

欧米紙の新聞を当地で入手することはできない。ニューズウイークやタイムといった雑誌はスーパーマーケットで売られている。

⑷ 日本の雑誌、書籍

当地では入手できない。アマゾン等で個人的に購入するしかない。

## 16-2 ラジオ

⑴ ラジオ放送局

FM 民放局数局と、半官半民のラジオ局が開局している。英語とクレオール語の両方で放送されている。人々はラジオからのニュースを情報源としており、放送内容も政治的なものから音楽までと幅広い。国内には 6 万 5000 台の受信機があるといわれるほどラジオが普及しており、政府の広報はラジオを通じてなされ、国会での議事の進行状況なども終日即時中継されている。

⑵ NHKワールド・ラジオ日本（ラジオジャパン）

＜NHK ワールド・ラジオ日本問い合わせ先＞

NHK 国際放送局国際編成部

所在地：〒150-8001 東京都渋谷区神南 2-2-1

電話：海外から：+81-3-3465-1111（平日／日本時間 10：00〜19：00）

日本国内から：0570-066066（NHK 視聴者コールセンター／24 時間受付）

E-mail：info@intl.nhk.or.jp

＜周波数表、番組表＞

URL：http://www.nhk.or.jp/nhkworld/japanese/radioguide_j.html（周波数表、番組表確認）

FAX：+81-3-5454-0888 情報番号 260（日本語放送の周波数表・番組表 FAX サービス）

郵送：返信用の90円切手を同封して上記NHK国際放送局国際編成部に請求する。

⑶ 聴取可能なその他の外国放送

短波ラジオ以外では特に聴取することはできない。

## 16-3 テレビ

⑴ 地上波放送局

地上波のテレビはない。テレビは全てケーブルテレビである。

⑵ 衛星放送、ケーブルテレビなど

半官半民のテレビ局 Marpin Telecommunication（マピン・テレコム）社と民間



All Rights Reserved, Copyright(c) 2010 Japan International Cooperation Agency

の SAT Telecomunication (サット・テレコム) の 2 社がケーブルテレビの配信事業を行っている。共に自作番組の他に CNN や BBC などアメリカの番組を主体に 24 時間の英語番組を放映している。このなかには、政府広報用のチャンネルも確保されている。

テレビは、申し込めば数日で受信可能になる。テレビの受信料金は 51 チャンネルで 1 カ月 60EC ドル程度であるが、支払いを滞納すると即時配給停止となる。性的／暴力的内容の映画番組を子供に見せないため、これらを別契約としている。

衛星放送を受信するという方法は一般的ではない。アンテナ等も売っていない。一般家庭は上記のケーブルテレビを視聴している。

⑶ テレビ受信

テレビはNTSC方式でケーブルによって受信する。

## 17. スポーツ、趣味・語学学習

### 17-1 スポーツ

⑴ ゴルフ

当国にはゴルフ場はない。

⑵ テニス、フィットネス

テニスは首都にコートが二面ある。管理者がおり、管理者に連絡すれば使用可能である。フィットネス施設は一軒あり、筋力トレーニング、スカッシュ等ができる(有料)。泳げるようなプールは地方に一つある以外は当地にはない。

当地はサッカー、クリケットができるような空き地があるぐらいで、陸上トラックもない。

⑶ その他のスポーツ

アウトドアスポーツとしてシュノーケリングといった海辺のスポーツはカリブ海側の海岸で実施できる。また、熱帯雨林の山中にはハイキングコースが数多くあるが、遊歩道等があるところは少ないので、ほぼ自然のままである。

### 17-2 趣味

映画、カジノといった娯楽施設はない。ショッピングモールやデパートもない。

### 17-3 語学学習

⑴ 語学学習施設

フランスの文化局であるアリアンセフランセにてフランス語の語学クラスが有料で開設されている。また、ベネズエラ大使館にて無料でスペイン語のクラスが開設されている。

⑵ 家庭教師

公用語である英語や現地語であるクレオール語は個人的な家庭教師を雇って



All Rights Reserved, Copyright(c) 2010 Japan International Cooperation Agency

学習することができる。講師は知り合いの紹介、新聞広告等で募集する。

## 18. 観光

### 18-1 地方旅行の留意点

当国は小さく、どこへでも日帰りで行き来できる距離にある。地方へ行く場合は、目的地に行く乗り合いバスに乗って定額料金を支払えば目的地まで連れて行ってくれる。但し、夕刻遅くなってからでは地方から首都へ行くバスが確保できないことがあるため、日帰りの場合は最終便を確認する必要がある。また、土曜日の午後、日曜日はバスがまったく確保できなくなるため、タクシー（バス）運転手と個人的に契約し、車を借り上げておく必要がある。

### 18-2 主要観光地・保養地

観光地といえるような場所はあまりない。フランス統治時代の面影を残すロゾー市内は歩いて 30 分程度で一周できる程度であり、ロゾー市内が一望できる丘を訪問するにしても直ぐに回れてしまう。建物では他にはポーツマス市の旧城砦跡等ぐらいしか訪問地として上げられるとことはない。他は、湖、川、滝、熱帯雨林のハイキングといったアウトドアが観光の目玉である。当国は火山の島国で、島が形成されてから日が浅いため、カリブ海といって想像するような白い砂浜は存在しない。大きなリゾートホテルといった施設もないため、おのずと大自然で過ごすことがメインとなる。片道4時間かけてハイキングすると火山で沸騰したボイリングレイクに行くことができる。各地に温泉があるが、川添いの露天風呂で温泉につかるのもリラックスできる。自然のままのトロワ・ピトン自然公園はユネスコの自然遺産に指定されている。

### 18-3 旅行代理店

旅行代理店は数店あるが主に飛行機のチケット等の販売を行っており、国内ツアーのオプション等を用意しているところは少ない。国内のツアーはバスの運転手がオプションを提示してくれるので、そうした個人のバス運転手と値段等を交渉して実施するか、ホテルでアレンジしてもらうのが一般的である。

## 19. 私財の輸送、引き取り、購入

### 19-1 家財道具

⑴ 輸送会社

日本からドミニカに家財道具等引越し荷物を送る時は、海外引越しを取り扱っているヤマトなどの運送会社で手続きすることで送付できる。

⑵ 輸入手続き

税関では梱包を全て開けてリストと物を確認される。



All Rights Reserved, Copyright(c) 2010 Japan International Cooperation Agency

⑶ 輸入貨物の受け取り港

海送の場合はロゾー市郊外のコンテナ専用の船着場に荷物は着く、しかし、日本から当国まで海送では小さなものでも2か月～6か月程度の時間がかかる。

## 19-2 自動車

⑴ 一般状況

1998 年末現在の登録車両数は 1 万 2332 台で、国民 6 人に 1 台の車が走っていることになる。車両の登録台数は年々増加しており、1989 年からの 10 年間に 76%増加した。最近では単車の数が増している。

乗用車は日本車が大半を占める。日本からの安価な（2000CC 以下、5 年以上使用で、3 万 EC ドル以下程度）中古車が、中古車輸入業者や、時にはインターネットで直接取引され急増中である。しかし、これら中古車には、整備指示書や取扱説明書は和文しか付いておらず、料金を支払ったものの車を送らないなどの悪質業者もあり問題が多い。車高の低い乗用車は、穴ぼこや急な坂道が多い当国の道には向かない。車高の高い 4 輪駆動車が実用的である。

＜ガソリン＞

ガソリンは、主にベネズエラからの輸入であるが特に品切れなどすることなく順調に供給されている。ガソリンスタンドは各地にあり、どこでも深夜を除き、年中無休である。また、最近では小さなスーパーマーケットを併設している施設も多くなっている。ガソリンの値段は1ガロン EC$14 と日本並みである。

⑵ 輸入手続き

日本から中古乗用車を輸入する場合は、日本の貨物業者や海外への中古車輸出業者に料金を支払って海送で搬送してもらう。当地に到着したら荷物引き取り業者等に依頼し、当地の車検を得て走行できるようになる。

新車であれば当地の現地ディーラーで手続きを行う。在庫がない場合は購入手続きをした後ディーラーに輸入してもらう。特に手間がかかることはない。

免税処置をしないと車両には 100%に近い諸税が掛かる。また、免税処置をしても一部の税金は支払う必要がある。

⑶ 現地での購入

中古車の場合は取り扱い業者に連絡し購入する。ガタがきているものが多く事故歴等もわからない。また、購入後に何の保証もないため、かなりリスクは高い。

新車の場合は、日産、スズキ、ダイハツであれば日本から直接輸入した新車を代理店から購入することができる。日産、スズキは整備工場もあるので、購入後もメンテナンス等のケアが受けられ、純正部品も手に入る。日本で売られている全ての車種が購入できるわけではないので、取り扱っている車種から選ぶ。


All Rights Reserved, Copyright(c) 2010 Japan International Cooperation Agency

⑷ 自動車登録

車の登録は販売業者が実施してくれる。登録によってナンバープレートを取得する。車には車検制度があり、車を運転するには車のフロントガラスに有効な車検ステッカーを貼付しなくてはいけない。車検ステッカーは車両事故保険の購入領収書を持参し、その期間内有効であることを確認した後、警察立会いの元、方向指示灯や灯火、ブレーキ、タイヤの摩耗などの視覚検査を受け、全て正常に機能することを証明してもらい、税金を支払い受け取る。車検ステッカーは毎年更新する必要がある。たまにロゾー市内において警察によるステッカー等の検査が実施されている。

⑸ 免許証取得

ドミニカ国は国際運転免許証条約を批准していないので、日本国の運転免許証や国際運転免許証は基本的に通用しない。しかし、英語で証明されている期限内の国際免許証を提示することによってドミニカの免許に書き換えることはできる。長期に当国に滞在する場合は、国際免許をドミニカの免許に書き換える必要がある。短期の場合は、身分を証明するものと、英語で書かれた国際運転免許証を提示することによって、短期間の一時免許の交付を受けることができる。レンタカー等を借りる際にはこの一時免許の取得が必要となる。当地で運転免許を取得する場合は、運転教習会社を受講するか個人に教習してもらい、警察の実地試験をパスする必要がある。教習は全て路上教習である。

⑹ 保険、税金

自動車保険には保証の限度によってオプションがある。一般的なものはサードパーティと呼ばれ、相手方対人対物の損害は補償するが、自分の損害は補償されないというものである。相手方、自分ともにカバーされ、限度も無限に保証されるコンプレヘンシブと呼ばれる保険もある。これは車の大きさや製造からの年数等によって査定されるが大変に掛け金が高い。

車には税金が課される。まず購入時に 100%近い税金がかかるため、車を購入する際は特に注意が必要である。また、毎年車検を取得する必要があるが、車検取得のためには保険の加入に加えて税金を納める必要がある。この税金の額は排気量、車種等によって変わってくる。

## 20. 地方都市

当国にはロゾー市以外に市はなく、ロゾー市で人口 15000 人程度である。その他では、第2の都市であるポーツマスと空港のあるマリゴットが町、その他は全て村のレベルである。



All Rights Reserved, Copyright(c) 2010 Japan International Cooperation Agency

# Part 3 イエローページ

＊特に記載のない限り、事務所周辺の情報が中心になっています。

## 1.JICA 事務所

| | |
|---|---|
| **名称** | JICA/JOCV Dominica Office |
| **所在地** | The Globe, 106 Independece Street, Roseau, Commonwealth of Dominica W.I.<br>P.O.Box 163 Roseau |
| TEL/FAX | Tel:1-767-440-3183, 1-767-440-3184　Fax:1-767-4403185 |
| URL/E-mail | dm_oso_rep@jica.go.jp |

## 2. 在ドミニカ日本大使館

| | |
|---|---|
| **所在地** | **当地には無い。管轄は在トリニダード・トバゴ大使館となる。** |
| TEL/FAX | |

## 3.緊急連絡先電話番号

| | |
|---|---|
| **日本大使館** | （**在トリニダード・トバゴ大使館** 1-868-628-5991～3） |
| **警察** | 999 |
| **消防** | 999 |
| **救急車** | 999 |

## 4.ホテル

■ Fort Young Hotel （**フォートヤングホテル**）
Victoria Street
Tel:1-767-448-5000, Fax:1-767-448-5006
www.fortyounghotel.com
fortyoung@cwdom.dm
Visa, Master, Amex
95US$～220US$（**1月～5月**）、85US$～200US$（**5月～1月**） ＋20%Tax

■ Garraway Hotel （**ギャラウエイホテル**）
Dome Eugenia Charles Blvd.
Tel:1-767-449-8800, Fax:1-767-449-8807
www.garrawayhotel.com
garraway@cwdom.dm
Visa, Master, Amex
90US$～150US$ ＋20%Tax

■ Sutton Place Hotel （**サットンプレイスホテル**）
25 Old Street
Tel:1-767-449-8700, Fax:1-767-449-3045
www.delphis.dm/sutton.html
sutton2@cwdom.dm
Visa, Master
75US$～135US$ ＋20%Tax

■ Mr. Clean Bed & Breakfast （**ミスタークリーンベッドアンドブレックファスト**）
9 Federation drive Goodwill
Tel:1-767-440-2969、Fax:1-767-440-2970
mrcleanfed9@cwdom.dm
**カードの使用は不可**
70US$（Tax **含む、共同キッチン有 朝食付**）

■ Narakiel's Inn （**ナラケルスイン**）
Goodwill
Tel:1-767-276-4492(Mr.Prince)
narakielsinn.com
narakiels@gmail.com
**カードの使用は不可**
60US$～80US$(Tax **含む、キッチン付有**)

## 5.不動産会社

■ Real Property Management
Tel:1-767-440-4995, Fax:1-767-448-1930
www.propertymanagement-da.com
**当国の不動産会社はどこも賃貸物件の斡旋はほとんど期待できない**


All Rights Reserved, Copyright(c) 2010 Japan International Cooperation Agency

## 6.レストラン

■ The Chef Cafe
Old Street
Tel:1-767-440-1907
**クレオール料理の朝食、昼食が楽しめる。クレオールソースが美味。カラルースープが特に人気がある。**

■ Cartwheel Cafe
Cnr Bay Street & Johns Lane
Tel:1-767-448-5353
**フランス風味のクレオール料理。盛り付けがきれい。**

■ Cocorico Cafe
Cnr Bay Front & Kennedy Ave
Tel:1-767-449-8686
**ハーバーに面したおしゃれなカフェ。上品なクレオール料理。飲み物も充実。**

■ La Robe Creole
3 Victoria Street
Tel:1-767-448-2896
**高級クレオール料理レストラン。バーはカクテル類が充実。**

■ Pearls
King George V Street
Tel:1-767-448-8707
**味、盛り付け共に楽しめるクレオール料理。テラスからロゾーの町並みを見ながら食事ができる。**

■ La Maison
4 Fort Lane
Tel:1-767-440-5287
**フランス人シェフのヌーベルクイジーン。味、店の雰囲気共に高級。値段も高級。ワインが飲める。**

■ Dynasty (**中華閣**)
18 King George V Street
Tel:1-767-440-3021
**安くて量があって美味しい中華。土曜日も営業。**

■ Chainatown Restaurant
Cnr Great George Street & Cork Street
Tel:1-767-440-6266
**美味しい中華。個室があり会合に便利。日本人割引あり。土曜日も営業。**

## 7.食料品の入手

**＜市場＞**

■ **ロゾー朝市**
**ベイフロント水産局前広場。**
**新鮮な野菜、果物、肉の販売など。**
**毎週土曜日早朝に開かれる**

■ **水産局魚市場**
**ベイフロント水産局1階**
**シーラ、マグロ、カジキ、カワハギ、キングフィッシュ、スナッパー等魚の販売。**
**毎週土曜日早朝に開かれる**

■ **お土産市場**
**ベイフロント** Old Market
T シャツ、籐製品、おみやげ物の販売。
**週日及び観光客船が入った時の土曜日に営業。**

**＜スーパーマーケット＞**

■ Astaphan J & Co Ltd
65 King George V Street
Tel:1-767-448-3221
**食料品販売のみならず、家具、電化製品、靴、服等も販売する大型スーパー。**

■ Whitchurch IGA
Old Street
Tel:1-767-448-2181
**輸入のサーモン、豚肉のヒレ肉 (輸入) 等が買える。店内に惣菜店あり。**

■ Brizee's Mart
Canefield
Tel:1-767-448-2087
**ケーフィールド町近辺にある。ホールセールもあり。フライドチキン屋、アイスクリーム屋も併設。**

■ Seven Eleven (**本家のセブンイレブンとは関係ない**)
Sant John's Ave



All Rights Reserved, Copyright(c) 2010 Japan International Cooperation Agency

多くのお店が夕刻には閉まるなか、夜 11 時まで営業している。日曜日も営業しており便利。

## 8.デパート、ショッピングセンター

当国には存在しない。

## 9.家具

■ Corts Dominica Ltd
Old Street
Tel:1-767-448-7655
カリブ地域に広がる大型家具店。家具及び電化製品を販売。

■ Astaphan J & Co Ltd
65 King George V Street
Tel:1-767-448-3221
2階でソファー、キャビネット、机、ベッドといった家具を販売している。1階は食料品売り場

## 10.工具、素材

■ True Value(E.H. Charles)
Goodwill Road
Tel:1-767-448-2390
ハードウエア工具、部品全般を販売している。木材、建築資材等も販売している。

■ D&D Hardware
Elliott Ave.
Tel:1-767-449-0542
水周り、電気関係、配管関係、機械部品等様々な部品を扱う。

## 11.医療機関

■ Princess Margaret Hospital
Goodwill
Tel:1-767-448-2231
当国唯一の国立総合病院。救急外来もあり。入院設備もある。しかし高度な治療は期待できない。

■ Harlsbro Medical Centre
Hillsborough Street
個人開業医があつまって開業している施設。受付時間、診療日、専門等は各医者によって違う。
小児科、内科、眼科等

## 12. 民間救急車派遣会社

■ Dominica Red Cross Society
Federation drive, Goodwill
Tel:1-767-440-2483
2 日前に予約すれば救急車を手配してくれる。

## 13.薬局

■ Jollys Pharmacy
8 King George V Street (本店)　36 Great George Street (支店)
Tel :1-767-448-3388(King George Street)
調剤、市販薬販売。薬剤師がいる。シャンプーや日用品、台所用品、スポーツ用品と幅広く取り揃えている。

■ Bullseye Pharmacy
Federation drive, Goodwill
Tel:1-767-449-8600
調剤、市販薬販売。夜間、土日も営業している。緊急時には医者の手配も可能。

## 14.金融機関

■ Bank of Nova Scotia(Scotiabank)
28 Hillsborough Street
Tel :1-767-448-5800
カナダ資本の銀行。24 時間 ATM サービス。

■ National Bank of Dominica
64 Hillsborough Street
Tel:1-767-255-2300
一般市民向けのドミニカの銀行。


All Rights Reserved, Copyright(c) 2010 Japan International Cooperation Agency

■ Firstcaribbean International Bank
Old Street
Tel:1-767-448-2571
**外資系の銀行。**24 **時間** ATM **サービス。**

## 15.レンタカー会社

■ Courtesy Car Rental
10 Winston Lane Goodwill
Tel:1-767-448-7763

■ Island Car Rental
Canefield
Tel :1-767-448-0737

■ Best Deal Rent -A-Car
15 Hanover Street
Tel:1-767-449-9204

## 16.国際宅配サービス

■ DHL
Cnr Hanover Street & Kennedy Ave
Tel :1-767-448-5887
**日本まで実働日4日で配送。ボックスもあり。大変に高価。**

■ FedEx
Cnr Cork Street & Old Street
Tel:1-767-448-0992
DHL **より若干安い。**

## 17.コンピュータの販売･修理

■ Premier Computing Service
22 Upper Lane
Tel:1-767-448-8255
**コンピュータ、プリンタ、インク、周辺機器販売。**

■ CIS Enterprises
Old Street
Tel:1-767-448-0474
**コンピュータ販売、周辺機器、**CD-R,RW、DVD-R,RW、**ゲームソフト販売。**

■ Campbell's Business System
133 Bath Road
Tel:1-767-448-0905
**コンピュータ、プリンタ及びプリンタインク、コピー機トナー、事務機器販売。メンテナンスサービス有。**

## 18.教育機関

■ Dominica State College
Stockfarm
Tel:1-767-440-3532
**職業訓練等を実施。**

■ Pioneer Preparatory School
Checkhall Valley Estate
Tel:1-767-449-9500
**外国人も受入可能な私立の小学校。**

■ Orion Academy
Roseau
Tel:1-767-449-3233
**外国人も受入可能な私立の中高等学校。**

## 19.図書館

■ Public Library
Victria Street
Tel:1-767-266-3311
**公立の図書館。登録カードを取得すれば図書の貸し出しも可能**


All Rights Reserved, Copyright(c) 2010 Japan International Cooperation Agency

## 20.新聞の購読

＜日本の新聞＞

当国では購入不可

＜外国の新聞＞

当国では購入不可

## 21.ケーブル TV 会社

■ Marpin TV

Great Marlborough Street

Tel:1-767-440-6110

50 程のアメリカのチャンネルを有する。国営ニュースも放送。中国語、スペイン語、フランス語の番組もある。

■ Sat Telecommunication

20 Bath Road

Tel:1-767-448-5096

50 程のアメリカのチャンネルを有する。国営ニュースも放送。中国語、スペイン語、フランス語の番組もある。

## 22.スポーツ施設

■ Anchorage Hotel

Castle Comfort

Tel:1-767-448-2638

スキューバダイビング、ホエールウオッチング等マリンスポーツをアレンジしてくれる。

## 23.語学学校

■ Alliance Francaise De La Dominique

Elmshall

Tel:1-767-4458-4557

フランス語が学べる。

■ Embassy of Venezuela

20 Bath Road

Tel:1-767-448-6198

スペイン語が学べる。

## 24.旅行代理店

■ Whitcurch Travel Agency

Old Street

Tel:1-767-448-2181

IATA 公認。航空券の手配。

■ Paz Travel & Handling Services

4Cross & Field Lane

Tel:1-767-448-8207

国内旅行のアレンジが可能。

## 25.輸送会社

■ Wyllis Service

Fond Cole

Tel:1-767-448-3911

コンテナ海送取り扱い業者

■ Amerijet International

Melville Hall Airport

Tel:1-767-445-7900

空送荷物取り扱い業者

## 26.保険会社

■ Fast Domestic Insurance

21 King George V Street

Tel:1-767-448-8202　車両保険等取り扱い業者

■ New India Assurance Inc

King George V Street

Tel:1-767-448-4023　住宅火災保険等取り扱い業者



All Rights Reserved, Copyright(c) 2010 Japan International Cooperation Agency